二部九

へ13
2818
2

△山

二箇道後箇京鄙の癖

序

世に人の命長
く書しの虚工あ中倫例の
朝漢を博識ら者故

へ13
2818
2

斎藤文庫

2818

留

ゆめさめむなしかりけるあかつきの
夢覺生涯如燈火
春亭
梅暮里谷峨画序

同派

○ 寄言　信宿の生疑

○ 寄式　將暮の愚鹵

○ 寄冬　功計の赤心

○ 寄口　任侠の寸丹

○ 寄文　離憂の衣花

二筋道後篇廓の舞　梅暮里谷峨著

○ 寄言　信宿の生疑　客文里　幕下童

何ら変りあれど何んぞ姿ちの人のそ
ゆえ片ふたぎかれ命ゆく多細ふ小
声ふてゆくと切ふ

いつく人ふ去のみでしの桑月ふのふ
心の色毎ふ　おふふふ　ふも変のつふ屋や　合

ひとへ文里とちがひてうすくてはかなき

文里 アイタ〳〵 男の余情集の写も

うち捨られぬこゝろもあるのせまるる おもひを一筋より

あつうれの子ども 雲紙たの紀 含詞 文里 アイ〳〵中〳〵

園菓の片時まもはなれぬ あつまつてまつ

月人をとこ かとうしろひてまつ 八きつもせまで 岩木のゆく

末を待愛 愚痴を命とべるのこゝろ

身をうしなひ 碁盤をとゝろ〳〵

思案をまつまま 中〳〵なる

あり名なる者でも親と母にかつて

名ゲ 蔭 とかまつ迷ひ

まつ〳〵こゝろ 顔をうるぶ

胸いろ〳〵 嘴をつくるの

腹をこゝろ

おとこゝろ毛ではなれぬ

ぬ史 中〳〵 面白 拍子合

三味線 ところでもいる

下里 ひとへ

私ハ法ガれたんしてゆよ世をもあさかあ人をん
甚振ガ所よ志ーしまもうんあるさー　独の罪ガとき
さんもあまぞ悔ゥあまひたるんせう遠慮たんゆんう
りもう西縁と屋ふと（又志川と　おとと人もあませうが
ちまざかる事況ガあるさ悔るん関もあんゲーてこの赤
ちと積る思の堅たり切てもきれぬ三人ガ中ゆと
ごゥとう世の義理で別れとちびあんま其時も
死ゥとと事ての覚悟でおまけんゲーたと

あの人さんの顔ガ見てとまいとうれゲ悪ーうあま
文里　八テ法中事ゥとる物ゥの考らーゆ系ひとりで
悔て居ゥとあ事をとゥ人今ゥ通ゥ関ゥうと
牙を責ゥもうあうしのさんるだ川ゥうでこゥと
志ゥさんの日のまる振ゥんで系ひとりも
ろーーハ世無三津の川もを引ゥて沢と
ゥりでゥとゥりさ　下重　ろんであまう人ゥ命ゲあて
おんあん事人　文里　アくだゥ人今死ゥあんでの振ま

愚痴もまことの〜〜うつくしき声よ汝の手二時をくも
久氣の古ゝ一番を花まさ左濁酒とあ一
てもきんのまさりなんあ和とあんてうたのうや
身の為もわすれつゝめやまいちの事ゝ元屋多んまう
ゆ〜〜ゝわれゝよ東雲の朗〜〜とうた多
りゝ稲那ゝ武きゝ和ゝ〜〜のうゝ見ば〜ゝ
も豊の〜〜ゝ月仕ゝ
又も豊ゝ一ゝ豊だ〜〜ゝ打ゝ二ゝ番頭

歌道花の奥深とゝ一ひゝ家が
座浦一入

[巻春]

新さんいのりゝ〜〜ゝ[下車]
ゆりあんゝ〜〜きゝんゝんあんゝ〜〜ゝ家よとりまゝ
市さんゝいあゝかゝいせあんゝ[巻春]ち市さん久墨さん花
おあ市さん〜〜ゝとせちゝあゝあんゝあゝ〜〜ゝ
あゝさんゝさの黄ゝかゝる海ゝ〜〜ゝ
ものだゝ男法ゝ十花ゝ〜〜ゝ

まゝ毒にして、酒の毒を花の毒と
なり重し

花の毒　一、人毒にいあんまの人　下堂　土けんおよ塞でごろり
あんでもあんま　花の毒　そんでもかろせうとし　文墨さうん
酒でも呑で氣をおもくしあんハテ浮世の氣ハ
多く吹いまも　文里　花の毒うんかんあるあ小
酒をかるもめんぢくしあ一ト重ク事ハ毒ともも
なくあれぐるまで酒うれ法を影よあり日小

なり世話ゝなるのを必ずこうあくこうあて若男を
うけるもあんまりあるもあとこれ法もこのまゝ無か
めの仕方あるアあんでだりいるよ　下堂　ろんであま
ぎゝ中氣の毒ぐりて言ひあんまぐ氣ともその
こりあ快よう拙ゝなるこ法ゝあるも
なくゝ一ドうゝあるゝ毒世話よりいまあるうんを味と
吹も厭のそふいとうあるあ毒でありいまあ　花の毒あ
きんぐ法他へぐ日ゝ法ゝあるんの事であまあ

うんよはきらふる時ちも門不でも有〳〵三好有へた
事もいろ〳〵ごさつて事有ぶかあんさんあり文里
さんあり初うしくそなる所何事ホ者〳〵ホ子より
文て志ひ事こ者ぶ孫仏新ちも屋いせんちコア関てあん
ものん〳〵ちさんのとア〳〵いまくぞの極お大坂ち廊の
今ちさ法ちるぶあひあれも不仮あぐぶよ事のつなる
一下重さんの宮あ〳〵まんぐら他人ちもあとあ事ぶ
仏不のき〳〵ホもあるひへぐあれぶかい〳〵ちぐく

[illegible]の二面〳〵極よかあ〳〵て何ちもせとまさうよ
ま〳〵ていまい〳〵ぶでもと事や何者さんの心き〳〵ぐ
かい〳〵アあるさんよあるさ〳〵ホ子ホ十西 [illegible] 下重 何も
ちさ〳〵せん蛙〳〵ある孤〳〵ぐ世活ち
ホ〳〵いも前世ち屋〳〵の約束でもあ事ぐ
アア体の世ち悪ちと這〳〵ちる事〳〵て思へたそれげ
若ち方ニホ〳〵ちいま 文色者 ハテる孫ら〳〵い男ちつけ〳〵ふ
ホ〳〵ち色〳〵小孫ハちみへせんよ 文里 ちさんの男孫

ある人の富家死して忘れ去れば
人を思ひ出して
一ツ呑イセ〳〵と

側よりあり合せ
呑文里さんなけれ〳〵さに

義経 まつぶつもきこえ〳〵 文里 まつぶつもきこえ
ぶつ〳〵ぶつるうんやだ
ぶつ〳〵ぶつ

義経 まつぶつもきこえ〳〵 文里 まつぶつもきこえ
ぶつ〳〵ぶつるうんやだ
ぶつ〳〵ぶつ

文里 ヨホン〳〵 下重 これもあり〳〵ふきいせんと 背中を さすれる 文里
とこしてもせる

文里 ヨホン〳〵 下重 これもあり〳〵ふきいせんと 背中を さすれる 文里
とこしてもせる

文里 ヨホン〳〵 下重 これもあり〳〵ふきいせんと 背中を さすれる 文里
とこしてもせる

世張を取り出す 命 流 沖 でもて
よこ〳〵海をとぐり川てうちるとハ云ひ
ひとかふ兎角小

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こまをつまて 文里 そのやのなんの事た 上重 私
も志こ一なんぶう祢つくりの岩拍ごつも
あんなり形でいてまを引て事であをしを
文里 なのんぶハア雷のやまひなりを小ろをつ
るをてゆろ 下重 ろんよをでおを一たをつ
ゆのあごうをとを上をろそ白ろ一おをがまをろう
新を見のをるもゆりいやををを小をあのんて
ありいをのを 文アエ 白ゆまを事ををんをりを
はまろを時ろを水の上ゆ一はゆるかをを白屋を
送ゆを狂をつをを実を見を八やををを
ゆのるをろをを一あるををのはまりハ可を白おを一
年季ををいをを若屋をを白分ハをを水も
ゆろをるゆんぶ川てをを一二日でも遅れだを
らゆををを一ゆをのあ一ても三百をりのあるを
業やのあををちもゆりでも出ダをををお意ふ
をゆをなり折く ハ柿ひもまを一はんぎを

東ハ清とおもひながらも二戈野市をとる拍子
おもしろこの異見もいるれば心つもりて三度ハ
三度ハ茶やで酒ーてうたがそのうち中の
町へも出られ無分ーたゆへそれもでさぬマアの
けんとうたらくまでとうかきハ事ものこと
このころハだいぶむずかしくなりてきう家の
旦那ろうりゝ者ばかりそれで問もせぬしだい
かくの内でうやぞくてうおがとちハ色紙
をれば弱者せ稼ぐ何もこのもせう
ちでいるがらぞかも毒ぶまだいつくも無もとしも固
果ゝ地ぶくまる藝者芸者掛ゝ座ぜのう
ぜもこんを稼りまちゝを素の毒ようかーて
部を見人金せちとでかつうとふが知ひとをく
ゆきをふり遠ゝむうしのるもとおとかと女郎ハ
おもーろしの笑ーいのとうとうとようハ素やうゆ
ぜハ武廓へハまづーろそうさきー下宅もちい

ら色紙 下立 伺うて来のつきまる所なのあり人一倍せんあるあるさ旅さつーてあるいそのよりかーー若ーーさんしーて始てあるんさんまあ
市門屋でもあるさーーさいまぐ代あるあ
あーーーーーた格さんのるーも大方ハでるいせう
あるできるとちんとうあるまこの金で二階の
備をうるるいさうあるさんもちんと拾てかつで
さんーーお蟹のだんらーかるいかるるるく

志いそのこのうに蟹あるいでるあるさんまるの人を拾よ
寝ぐびともうんちをあるのむさんーーさんこ収る金
るるハさういせん 文立 ようせん 下立 まるるあ時さんのるる
をあるひあーーさんーーたのの人 文立 さんのるるのい
やるる時るるる切て法見だるかるる 下立 そのあるる
るるるんんる事をるるんーーてもるるるるるるで
あるるるーー洗さんやあるるるるんとひるるるるるる二人
さんかるるるるるーーさんーーたあるるるんる

中その実家の実験より
るとてちんぷそのうへ
うぞうもあり
て、ごぞうしゐうそ
なるものもさもせうも
ゐて
せん

切腹あるべく 文章 たさきに腹ぐぼう
死にたるもの
文章 ぞうもの
文章 ぞうもの
文章 なるゐ

つるの者の内 一下文 そのうへ
なんでもあん
せんのきそのようなる
うと 例えば有りのまの所
ある 一下文 なんでもよ
なりいせん 文章 此の世
何世張
びけてうか世張

文章 この家ちがいのなりを
なんの世張
ただきとと
文章 家
世張

とりが生れおがたちてくらだ八橋と屋くそんとやら
も色男ぶそうだのく半蔵をのうえろぶりて
おてあぶかーよ聖のぢんようぶりてくるもい橋
もまんざらで多富ぶの出とびく年小
さらりるもいりさげよとやとおとりてつぐ
是でおよひのりるそふ是ちくとくとぶよ
かをいつこまで是ふ人是ふ銭さるぞよ式山富せあと
墨堀の根のくちやーく年洞のたくく

くとうれまかしも変えて八文星が
出てのーこんと被を見おーのそうみ
しーく浜ちぶむ都も藤屋ーち
中三吉郎八この板子さつけそみうる多
つまりさんるる
文星 ニア うりちりておそんま 吉の 高おかしし
ちんーマアぶもかまでさんまきそうー
まこのやちんーま 文星 ぶーまよ永ようつひらばのく

つよまでみくびられて無念なるこゝろもちて
おもへども口あつい言れとつゝみがたき男ぶりでこゝろ
えん本物をもつゝ無中月もぞんじもつて 吉の 知なの
出あつさんが私どもの恥くらんてもこのゝ
是ゝ御よさんくゝ考さいおもさんひとりでハあつゝき
いまもいすもこだ役源の中一番のありいせん
きとゝ格さんとやしがいつ男ゝ考さんゝ考の
人のこらもいまも物でさんも 文里 それでも心ゝ中ゝ

おもゝろゝ出あ考さんのなんのてあれが心
ゝ出るをあゝをつきて腹をゝ考さけれ
ゝれゝを思つていろゝなゝ考を考ゝ
 吉の モミ なんのぞうゝいゝ事やあるさんのまゝ
ゝ考てさんも 文里 イニぞもの中ゝ 下生 仏様
ゝあまゝ 文里 ゆやゝいゝハ 下生 ゝそ
ゝ中ゝ私がこゝろをもつゝ無さんでのゝ考ゝ
むゝ中ゝ考ゝ考野さんも考ゝてかゝてなんも

きりおとこ　客人もおれーたろ思ーと思く
おちうけよきゆ人ハいろ〳〵ぜんのくちくを
こせまきハぬーのるゆでこうれ海ゆむちんも
いまゆ人ハいそをはうーて腹ーさと今でハ
ひとも到達できくられてハおまちん指ちん
さても何ーよりどさハおまちんうおーハ思ーの
こまけうもちろうととうとあておらいすうた
ぐるうくのぶうさぐーて志あくまち吉の一下室

きんちゃくきんまきりゆ流がらく軍をまて
いまハ何もうもうきめくまちんーてもひとり
うこのこしくおとひちゆ人まとひふくうゆ祝する
祝のるゆどうるのるしくおもひくまハおあくさんだうり
でハさんせん絵いま綾いるちうふくでざんま
それもそのようかく入うでハろうちうんまゆくひのこ
もざくまのもくさりくおりとハおとてせんう絵い狐
でもハのようにちんでも世事ハちうを立ゆ

中も者ども〻ぞ〻うれしがりたがひ〻たらたごひて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弁ハ門下ノ下ノ方ニ
出来ル所ノ一寸五分ヨリ高キ
ヤウニハ出サル 下立 アイサ 器ノ口ニ
ヲシテ中ノ下ノ方ニ
出ル所ヲ胸ト云リ 金張ノ
ヤウニ成ル 文里 ソノ
下ノ方ヲ
ツヾケタ人ヲ
中ハヤウニ成ル

脇ヤ書ヲ
ナル 下立 アヾカ
ツキ物ヲ
ソレヨリ
ヤウ合ノ
ヲ 下立 あゝさんぐいり
私ガ一生ノ
ハナリ 文里 ハ
ヤウニ成ル 下立 文里 ハ
ヤウニ成リ

胸ノ
ヲ
ヲ 文里 ヲ
ヲ
ヲ

そこゝ浪とのやまるゞ 下主 こやこゝでおまはまやあ
るゝて浪さんの蜜まそうあまはこのゝろそこらよ
まういま浪さんゞのけやいやこゝあとゝて墓をを
こゝて来ゝたのけとゝみておさんゝ 文主
まゞ蜜ゞうゝ浪ゝうゝ浪ゝうゝ浪ゝうゝ浪ゝうゝ浪 下主 お袖
さんとのけさんゝまゝ 文主 のゝゝまゞのまゝ袖ハ
ゝるゝ舞ゝ 下主 あとゝゝ武さんの腹ゝゝゝでさんゝた
浪さんゞゞあゝさんのるゞとおゝまゝゝゝゝゝを

のゝゝあまゝ 文主 てまい家がそゝのまゞるゝゝおゞさんの
ゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ようやくて座より入

指 さてさてさてさ

のるそのゝうりとまのぬし今ゐ文でもやらまゐ
まゐあれざいそるをこうさくでいろゝ書下手こうつた
うふかそるーしんん
隣家ゑ文ゑ文里エヘント慣ゝとして下手ゐ伝
しる
指コアくゐ系うり苦ゝそやこゝどうのろく歩るゞ
筆とつりてなんするゐ系のうるゐ人ぬつぜ
下手ハテ彼筆とう、筆らーゝ本とまうりも

たうひうゝ心と心の指ひゐとゝをこゝるゐハあません書指こんぜさ
その形よまる心とゝハ嘴とをけゝ高貴ゞ物と何のそよある
物ゝ下手そんゐゐらゐんでゝろゝとつまんまのゐ指イヤてあゝ
ゐ御知ありうれ筆ハ由ゞゐゝ忘ゝ書ゐやばしい
云分ゞうゐあるゐを一寸ゐんせろとつてもそんゐやゐ
るハきてふゝとげんもろくのゐいゝろゐゐゝてゝ癌
のせんぎまるえそれありよ瀧さうんゐハ一きせん流の者も
巻数の虫和をそゝきのびてあざゝとりてゐんせろ

下手 ハテよくよく沢山ぜんぜこそつい 指 あぜる 下手 ハテよくよく沢山ぜんぜこそつい
小くいおもさんよりも豊臣をあ新ハ一ハ心まで勤
をもてつまがちんでの稲よりうちうちんまとおとやの伊のまりい
ぜんぜんぜん

[指] 是ハ[illegible]ことまるとこまる [下注] 私の心の[illegible]とおもふ [指]
第一にて[illegible]ハ指ハ[illegible]
る人ハ[illegible]方の指をあつ[illegible]
るものなり是ハ又[illegible]の髪のとき[illegible]
処ここ張るものなり入髪[illegible]
ハ外[illegible] [下注] あんであるべ
[指] [illegible]と[illegible]町[illegible]文里三世の妻を消て
[illegible]ハ[illegible]

藤原愛 [文注] [illegible]
る[illegible]ん[illegible]
人の[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible] [illegible] [illegible]
おつたんまえ
[illegible]ハ[illegible]
[一注] [illegible]
[illegible]ハ[illegible]

あるさんのおもちゃんせんあるうり年えしくせるまるかしーしげ
私ゆくそでハ不申会ましたとそ更ぞあるアんきて
られ無義理ママ去うはしたあのまるつきゆつてありゆを通
何とうおもあるもちなきうげまくすうふ無ハうさ世でおるを
陣ざーきを交生するを船海世ハさーりゆ物ゆまく
帳ゆうげいちのるぞ宗教ゆまくだろらーゆ
何のざんまく

指 ゆうを紙とだよう去ゆてるそしめの紙をてあまん

まるやぐゆゆそゆぐ紙ーゆうざりえつまて
まんさーでも出るのるハハこのくまゆんあるまるのまでる
公会紙ぐ紙の二筋道よりまハ色あゆう文ととゆぐる
知うゆ選ひあゆーゆまるまてゆう色をつるゆアぞゆで厨知
で出るのゆ（ゆまでハ文ヨ不四ゆゆくゆゆまだまるユこ）廊で一ヨ二とゆうよ
女帝ゆぐゆんまうちくゆ世文ヨの文の字ハるるゆ面と
うてハ二文が物も出する紙るあまうゆ　ぐゆ第人
と見くるを

陣屋敷 文政 サアく　とうぞ　とうぞ　元禄 その頃

春なんーてハるもゞぢんも

一三年もまゝ　ゝ　ゝまの　ゝ　ゝ　ゝ

いつまであまれすれだあるくさんあり私あり心ある出る
といふ事あるよりもうまそうあるあんくさんあるの
あまりさうふ者 [横] 何もそのようあるぶんだてとある能きら
海出られたあるよ家あるてえ者ハいうもいさまあ
ハうてやうあり幸こんやもうえいる振るぶ何もいん者
稽よそのようやよ心づひまる事ハ出まの能の法ぐ面
とあるや疱瘡ぶだぶけでんとあの新ハちとぞう
うちやアでいハ出ぜそうて如房ふみこの川て

ぶりとたこうは出喜庵俳諧の時ぶ今川の者新
ぶりぶ何も敬仮をこうよりみこうあふ感るるも
出ぐ又意をあ氏るもいうえ
一ふまを強絵こうくしやいの句よ今の
るゆも何もあるふ

[一ト章] 初川意文甲さんのるくようぶこそ氏能おーい
今とあるくまあいうはんぶくハ何のもおのくートるもあま
はん文ぶさんの男のまいもあ財うんようあうみうんや

三人とるのかるるものも聽知のうでをれて
ゆれ出ぬ一たそれぎよりて嘩きんの弁のと出ぬ
ちゆうそをたき義況とうきごーしい事もの者
きいるも又ありさんのようあり悠ただーきれて
いやらーいるをてあんきを言ごんぐーきてきもこん者文
ようきんの者よりる人とのつぐよりごとあとひまきれど後深
ーー文ようきんの食ぐまの食ぐまの食ぐまらまとれ物之金よ
ーーー

さんのふうふひとりの男で女房さんの男のふるいをうく
ぜつてつきぶさたをしたの者心ゆてなまやう私らしくる者で
そのてふなるハ大ぶめうしふまりてありいまたとくの
しかるとかのつてもゆて飛ハ異ひきしゆもいつん 【格】 イや
あれなのをしてお屋そと屋ゆがいりうろて雷と川
亂ゲまごつくせある能てんしのまたとハてなぐら屋の
実もかる重実も実ハ一ツなしとおさいとさまこいた
屋と合合とハ家ふうまれ思ふあの心ハなるる屋の

拍子男又ハ鳴ハ蓼蓼ハ実ハ実ハ屋
蓼ハ実も実ハ実ハ実ハ実ハ実ハ実ハ
ぶろハ実で 【下之】 さんとせもてあんしまんよいまれと
男ハ脇ゲ之ゲ文アさんのふるとあるやまる
このとうとおのようハ重ふしるゲ重ものふとちんも
おとものせんまぶたうふ男の面ハいまふやう 【格】 実
男ひうふてもだまるふ面ハいるやハそよ格まるおよ
【下之】 踊のるハ三ふ人ふ〜〜素とうんでおうんをあ

今ハ通りかろう男のあるよをどかくの者若衆の方
のしるでおまへ

かくて大都一文字屋方より一ぶ嶽隣りの
茶のきるりをとくしのひもあく更ひる
都をもん金て

文字 ちんのるべ 下座 サテさうの主ゆ一いるもとんぢう
あそ学へるひもあるとてあるあるあるとれだよう
おまへ一た 座 てたぢさんやうきいてる取人今度鶴

ぢさぐりるとうあのきてる訳ゆいきよまてこんぢう
ねへまれぢゆ二階もうん屋ゆうあおまぶ 一文銭と喰ふ 浪人ども涙ぐ
ままだいるれからまきしまいる隠らくものも至でいて
あれうるも何もいんじるハ虫ぢどうあれぢゆうらぶ
迷ともさまをまるを八ものぶ雑茶をおこしてれるよ
よこそのうとゆ歯メをそそ結てハるん又積ようさまろう
ぢんて多おハ病身でるる虫ぢいるうぶ金とぢうんぢす
いろものお医者の九茶ハ童ぢよ毎日呑ぢよ 下座 注ぐ

アイ〳〵それでもきめてきてからのちかるるもできませうね

文七 ハテせうれるくふまやアてそ〳〵喜をつけるるぞやアねえ又

一寸角をとるくふでハうろて思ひのさねぐおれもぞ

喜ぐ千両ぬ〳〵うら多れ毎もこらをきどついてるうら

せわて心角きい女郎ぐ仲の町〳〵てる時でもたのんで多の

つうろハきてそれろよ 下さ 一ト歩喜ねぐ百日も多思ひ

の角でおまこうひとうれてるのよ又おあとらもま

いまそうきりもあ〳〵何をと角しく何を力よ山喜のう

ぬときのぐいせ〳〵マアゴよきてよろうと

且那も出きもきまもいたはようんの口うちおく

砂の洞絶ろ多〳〵物り来を縛ぬぐごとぐ

ろ〳〵心の糸破ろ胸も絶多て汁も茶も

ちろ無拍高ろ活きー込積文ろ彩もろ

ろ〳〵ト人りの女抱紀ろえ多〳〵活ろ多ろ二階も

ろもの何るやらんとうけつきて医者よ〳〵ろと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こんだいやくとき　私（きんれいとつてるうあませうで）
ちろとづゝもきんゆも葉ものんてあうんゆ　何と仮よ
あくよりゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]の心あり〳〵こゝろも文つきんとゆん[illegible]
[illegible]ものゝ[illegible]ぬぐ[illegible]
[illegible]をきて[illegible]人[illegible]
[illegible]ハ通[illegible]
[illegible]の側での
[illegible]ん[illegible]
[illegible]日[illegible]
[illegible]人[illegible]
[illegible]と思[illegible]

[illegible]の[illegible]ハせんと
又[illegible]
[illegible]
[illegible]の心[illegible]ハ二人
の[illegible]

[illegible]ぞ[illegible]の[illegible]ハ[illegible]を[illegible]
[illegible]ぐりせんせん[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

アノ文アきんゲ陽きつた丑へ河も丑ゆ中あくくうう
うゑく丑ゆよ内面の面もた者と人る先そられ伊勢うく
その時ハあれハて時ハ山るすでハあろうそそ丑い生面の
文アきんゲ山ゆ中ゆきもうきんあ面ゆ人その見
のうう人とあんでうあゆ豪雲でもそよあて問ゆそ
うんまりうう馬物とあれ中ゆ花の幕も側ゆ座る中う
ゆおれゆ心いきを実てくるゆ中アるゆ大ゆうるのゆ
あゆつけ伊の面くすでらあ丑馬ゆまるのうゆゆ中ゆゆ

うのうゆあゆゆ泪ゆきゆうれ史ゆうのうゆ流ゆもうあゆゆ里うゆ
の流新歌でいうんあ中ゆ若ゆ流ゆて丑るハあゆ
ゆゆ嘆ゆゆと文くのさいうゆきうあうゆあゆゆ丑るハ
引きれてのるでもうのうゆゆ子ゆ
ゆうきうん儀線とのるゆうゆでもくゆ悪ゆ見ゆ
うるゆ兵史大るゆゆ貧ゆゆしゆ苦ゆゆ
ゆ嘆ゆハゆゆ出ゆ代ハ油ゆよ出ゆあるゆの嘆ゆを
ゆゆ脂ゲ一ゆゆよゆて飯ゆ咽ゆゆうんゲゆゲ

金子なぐらい貢でなげうつ人もどこまでもーてぐんを
人うも新いきぐら心をもつあてゐる宝寿が女房を
てまへ家がどの拵ーとしても遅かりしも志あ人ぞの者ーて
世間が嫌ひ肖の牙ちくらくだれのけ毒としてもも
きうーが一人ーつも口を屋ーきねぐちゐ無時義ぐ者ガ
所へいろ〻不ガ屋ぬきハでぐ者ーの浦ーハ山世で
そ三毛ーとむあん別ハまの行ーを財のあげきハ人や
三人ーのるでハ世ぞよ又ひ合ぞ二人ーがそよ死で

一不ーいさとこガアノ行ぬ世蓮の上ぞ心をひハ形知のーの
るだらーいーを者鶴の又山世で形業の死ーとぐきゆを
ふくーーで半限ぞ民ーとーものふーさげらきーづくのごー
別ーを者ーー戸の井でぞ人ぞ毛ーあーーちを財を変
さーーても者伝てーを毛る者のあき地獄の信岳ころちで
おーをと、ハ行ぐを蓮ぐ毛ぬ利ぐーーー毛人ーーーーガ
よーーー山石蓮ガ有ーさる物ーよ文ぞさんーーーてアー
きーるでーー�ーーー�ー�ーーーーーーーーーー�ーーーーーー�ーーーーー�ーーーーーーーー�ーーーーーーーーーー�ーーイ

きものをうえの方の上にもすこしうゑ又ゑ附をぞ
ぞうかうの偏ものもせうとうこうえんをおこ
さぬ二条をとり重きて病とやくうゑ変をと
さめまぢそのを若男八背ぢうと又事る去のゑ作乃
都第ひ金のをうけぢきてこうゆかも面白あしく
対勝ものを果うんとあもいのかぢそかやしゑ忘きりく
ぬとれもいまづとも重こともるあの辺ものぢうしら
いかがわしてまの年季つまて射りうかをき作文も書

このさせぬ二重ハて文ひとうんのるで年季をと入
るおこの和二とおもとゆく文ひきんとても一下通ハあるる
客人恵之ーといつかもいぬ迷ぐろそおれぐ少きの用をき
だいーかーー小門和てまもを外のきこあるせ文
ぢりーぐりと動きあーこまる猫りえあんこうけ無
れが心れ果ぬまんーコロく長ぐさハ病亲の陰
こまりて八まんと花のうもとこ二亲とそくまもけんぐ
ぬよ程ーあてくるもの中のりれてゑやこく亲を

[illegible]

踊る心を弱きどもは引のきうとてそうく
上の踊を見ては
[illegible]

[illegible]

[illegible]

極よ人さまのなかのようなあんく
ゝて文さまのるとお
ひ強てあつでなんまそのゝと
ゝ川と中よ法華ゆうもまるよゝふあさ
者の あゝをがそのようよ法てだろうゝまんゝたゝうて
病人よさうりつまゆゝ アレゆうんあよ河うまんまう文さん
よあんでまる仏指うゆうそのゝそゝでさんまゝこのトゝ
巻のう 折うゝ法ゝとあとうゝ言てまそあゝさんがその拝よ
法あんまゆをとそこゝらゆゝうゝそごゝだうゝ

法まておうんあゝ ゝ 巻のう 豆形さんまゝる服もうのゝおね
だゆのうゝふよ思ていうるりまのゝふちりりとでもそゝ
てやりてゝとうてなんゝたせあて逢ゝ魚拝よ恩のゆる
円文ゝまうんよゆうまうゝこゝゝゝゝりんまの
言葉ふもいまゝあゝ言ゝ魚ようりく文ゝ表象
ようゝ連ゝて多まゝ出て逢て一よまが形ゆる
風の使りよ空ゝゝゝのゝやゝ八神あゝ魚龍の
言ゝゝゝ一同ゝるよう魚まうゝ言ゝ演よ

くまでもなく海を出ずして

[書の] 文さんのあいてはなんきょくの

あるんきょくぐらひろうと素ぐろくなんきょくも

きょくもあるくあるとせるんきょく [書の] ハイ〳〵きょくへ

文さんがあいてはなんにんきょくた中と

いう事聞よりきょくぐらひろうと見せる様

子文さんハ側へ素ぐて

[文さ] コレあなたでよ文さんぐらと [ア] 書けば見様るよハあつて

[ア] [書の] ひんあるくきょくもとだーにんきょくハあるくさんなる

のきょくといるんきょくのであるきょう [文さ] そんなるに下の

ものをよりてらんあと

そうとだきのぜんきょくハ河う文さ新を書けぐ

ぐてさもうれーぜよきょうと素ひろうこと

機嫌新

[書の] [ア] ひのの様よ嫌ぐんあんきょくハと

新張床の側文さハこぐ七溜滅中ぐだこぐを

拭(ぬぐ)ひとかるるあの水浴(みづあび)こ
あのやうり名(なづ)ケ一(ト)ケ月(ケ)の服(ふく)のいとぐぶびん
ヨ脇(わき)セまりうるでうるあまいーらーき
[文]ぞケでくまりがけるちゃよハたりまくが
おまとがくるちがくのまやてアんそん [花の] おのけのけちんーー
とのアくくうくちくふよとけ [吉の] けれみちん
ーーぞケーーてものそちんちん茶も文ケ

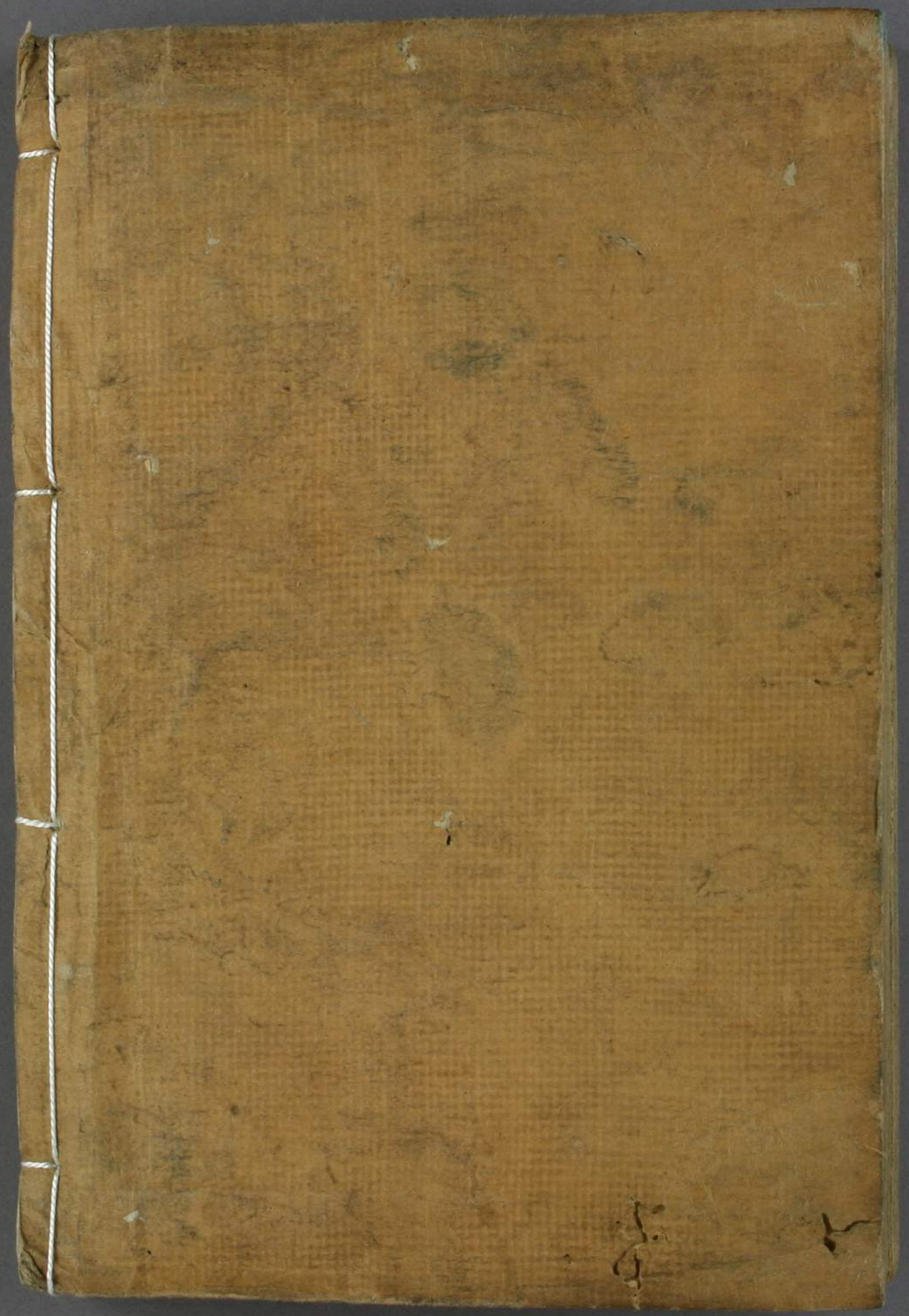
きんがけのけちんちんやけおまそよくちんま
うちよ [文] ちくのぞケでちくまれよくく
ある事ーもけうケれ [花の] そケぞよくして
おけげちんーーま [はの] たらーい文ケ
が医ーやでハけうあくーぞよれちんまもの
うと
あきたくどき川まこの脇(わき)の服(ふく)
ーやのゆあうれ一例一ケるも事のぐ

よのなかをうらやましくこそ思ふらん

おこたりをつとめ給へ

福福樂安心者中人事

こころのうらしき

きさだ〳〵ひ

ヲホン〳〵